

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3494100206		
法人名	株式会社 e-smile		
事業所名	グループホーム いこいの家 東海		
所在地	愛知県東海市大田町庄之脇7番地の1		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日	令和4年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_pref_topiigvsoyoin dex=true">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_pref_topiigvsoyoin dex=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和3年11月19日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

おひとりおひとりの思いを受けとめ一日一日を楽しく穏やかに過ごしていただけるよう、スタッフ全員でキメ細かな支援を心掛けています。広いリビングではゆっくりくつろいでいただき、ダイニングでは食事の準備のお手伝いやおやつレクを楽しめる広いスペースとなっています。新型コロナウイルス感染拡大を防ぐ対策を徹底しながら、施設周辺の人通りのない場所が散歩コースとなっています。

グループホームいこいの家東海は幹線道路に面した道路沿いにある。近年は施設周辺の大規模な区画整理があり、更にコロナ禍とあいまって地域との関わりが難しくなっている。そんな中でも、人流に配慮しながら日々の散歩を継続し四季の移り変わりを楽しんでいる。ホームの中では毎朝入居者と職員が共に目標を唱和し、「他人以上で身内未満」の関係性を大切に、ひとり一人の思いを受け止め寄り添いながら、一日一日を穏やかに過ごせる様職員全員できめ細かな支援に努めている。入居者は穏やかな表情で、思い思いの居場所でテレビを観たり談笑したりのんびり過ごしている。区画整理も、近隣の保育園の新築移転工事が始まり、道路が新しくできる予定となっている。保育園児との交流や近隣地域との付き合いが新しく始まる期待もあり、職員皆で楽しみにしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己自部外	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、食堂、事務所に理念を掲示し、職員全員で共有している。施設目標の「いつまでも出来る事は自分で、いつまでも自分らしく笑顔で」を毎朝全員で唱和し支援に繋げている。	事業所理念は誰もが目につく事務室や玄関に掲示してある。施設目標は居間に掲げられ、毎朝入居者と職員が共に唱和し支援につなげている。目標に対するケアは、入居者の状況に即した方法できめ細かく対応している。	事務所や玄関に掲示されている事業所理念が、管理者や職員間で共有し、支援に活かされているか、今一度確認し実践につなげることを望みたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大を防止する観点から地域との繋がりがほぼ無くなってしまっている。	町内会には加入していないが、運営推進会議には地域の町内会長や民生委員が出席し、地域の情報を得て地域行事に参加していた。現在はコロナ禍で運営推進会議への出席が出来なくなり、地域との付き合いは、日々の散歩での距離を置いた挨拶程度となっている。コロナ禍においても地域とつながりながら暮らし続ける関係を模索をしている。	コロナ禍で先が見通せない中であり、施設周辺の区画整理中でもあることから、難しい課題ではあるが、地域密着型サービスの意義を踏まえた地域交流の再構築を期待したい。また、町内会への加入を含めた話し合いも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所には、広い談話室があるがそのスペースが活かされていないと感じている。今後スペースを地域の方々に提供し様々な活動の場にしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、運営推進会議は延期されている状況が続いているため、文書で2か月毎に報告している。ご家族様にはメールやラインで意見等を頂いている。	2か月に1回の運営推進会議は、コロナ禍のため、書面での実施となっている。事業所の運営状況や入居者の様子、ケアの状況などを写真を入れながら報告している。家族からはメールやラインで意見をもらい、行政からも必要に応じアドバイスや指導を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍により現在はファックスやメールで、アドバイス等頂いている。	コロナ禍により、行政との連携は電話やファックスでの情報交換が主となり、直接担当窓口を訪れる機会は少なくなっているが、内容や状況によっては出向き連携をしている。介護保険の更新や手続きには介護支援専門員が行政との対応に当たっている。行政からの研修はリモートで行うことがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所は幹線道路に面している為安全面に配慮し施錠している。身体拘束については止むを得ない場合は、ご家族様に連絡し承認を得られた場合のみ行う事もある。	拘束適正化委員会を3か月毎に開催し、現状の把握確認を行っている。スタッフ会議や日常ケアの場でも事例があれば拘束の弊害についての知識を深め、ケアに応じた具体的な防止策を話し合い支援につなげている。玄関は幹線道路に面しており、安全上の配慮から施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待防止は徹底し、言葉、態度での虐待は、その場で注意しスタッフ会議等で必ず話し合っている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が制度等理解できていないのが現状、今後研修等があれば参加したい。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に充分説明し納得頂いて契約を交わすようにしている。一方的な説明にならないよう気をつけている。改定等があった際は文章にして承認の印を頂いている。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様・ご家族様からの意見、要望等は日々の申し送りノートに細かく記載し職員全員で共有し支援に繋げている。	入居者からは日々の暮らしの中で、思いや希望を聞き申し送りノートに記録し職員間で共有している。更に、担当制を取り入れ詳細な情報を得て介護計画にも役立てている。家族からはコロナ禍のため、ガラス戸越しで面会を行い、メールや電話等でも意見や要望を聞いている。得られた情報は、スタッフ会議で話し合い運営に反映させている。意見箱を設置している。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回スタッフ会議を開き職員の意見や提案を出し合い、職員のモチベーションが下がらないよう可能な限り運営に反映させていくようにしている。		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況に合わせた勤務形態をとり、有給休暇の100%修得の確立と働きやすい職場環境となるよう努めている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「皆が笑顔になる介護プロフェッショナル育成」からテーマに沿った研修を月に一回法人グループ全体で職員のスキルアップに繋げる研修を実施している。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内6施設のグループホーム管理者の集まりがあり、様々な意見・情報交換やアドバイスを得る貴重な機会となっているが今は電話等で意見交換をしている。		

己自部外	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の利用者様の概要をしっかりと把握し、入居されてからは、ご本人様の状況を観察しながら要望や不安等を聴き取り信頼関係の築きに努めている。			
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思いをしっかりと受け止め、不安感を与えない丁寧な対応で信頼関係を築くよう努めている。			
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活歴を把握し、最も必要な支援を見極め施設でより良い環境の下暮らしして頂けるよう努めている。			
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当施設のサービス提供の方針であるおひとりおひとりの思いを受け止めるという言葉通り温かくハートのある家族のような関係になるよう努めている。			
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の来所を控えて頂いている中ということもあり、職員には家族の一員として温かい気持ちで本人を支えていく関係を築いている。			
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中ということで、外出、面会制限がある為実施することが困難となっている。ご家族様からアルバムやお気に入りの本等を持ってきて頂き懐かしくお話をされるのを伺ったりしている。	感染予防対策のため、外出や面会が制限され、馴染みの場所へ出かけたり馴染みの人に合うのが困難になっている。そんな中でもガラス戸越しに面会をしたり、コロナ感染がやや落ち着いた昨今は、感染予防対策を取りながら短時間の面会や、少人数によるドライブを試みている。アルバムや馴染みの本、電話や年賀状等の支援も行っている。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同志対話が楽しめるよう座席に配慮したり大きなソファを用意しいろいろな所で、ゆっくりとテレビを観ながらくつろげるようにしている。			

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族様が訪ねて下さることもあったが、現在は面会等の制限がある為「いいこの家たより」を送付し近況をお伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活支援で得た情報を収集し、本人本位に検討し希望や要望の把握に努めている。意思表示困難な利用者様の場合は、ご家族様の意向を伺っている。	日々の暮らしの中で思いや意向を聞いている。スタッフ担当制を取り入れ、より細かな意向や要望を聴くことが出来き、日々の支援につなげている。意思疎通の困難な方には家族の協力を得たり、本人本位に寄り添ながら検討をしている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話の中で生活歴、暮らし方、生活環境を把握するために利用者や職員と一緒にゆったりと過ごす時間を取れるよう努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ベテラン介護従事者が多く、生活状況の中から動作や表情で心身の状態の変化を早期発見出来るように努めている。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様には、それぞれ担当職員を付けスタッフ会議でカンファレンスした日々の様子を共有し利用者様の意向に沿ってケアプランの作成に繋げている。	月1回のスタッフ会議で担当職員を中心に、入居者一人ひとりについて情報交換を行い、3か月毎にケアマネジャーと担当職員でモニタリングを行っている。本人や家族の意向や要望、医療関係者の意見等も取り入れながら現状に即した介護計画を作成している。状況に応じ随時、計画の見直しもやっている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	共有したい情報、気づき等は、日々の申し送りノートに詳しく記入しそれを職員全員で共有し介護計画に反映されている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の中で可能な方には、ラインで日々の様子や写真をお送りしたり、メール等で状況をお知らせしてより施設を身近に感じていただくようにしている。日用品の購入、訪問理容、訪問歯科のサービスを取り入れている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用することで、充実した介護環境が作れると感じている。今後有効活用出来るようになれば支援に努めて行きたい。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に入居者やご家族様の希望があれば、かかりつけ医で対応しご家族様の依頼により付き添い支援を行っている。協力医療機関による月2回の往診の他、歯科医による定期健診を行っている。	入居時にかかりつけ医あるいは協力医かの希望を聞いている。かかりつけ医の場合でも必要時は付き添い支援も行っているが、現在は全員が協力医が主治医となっている。月2回の内科往診と、年2回の歯科医の往診がある。週1回の訪問看護による健康管理も含め適切な医療が受けられるような支援に努めている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化、気付きはノートに記入、訪問時に的確なアドバイスがあり、特変があれば報告し対応や処置に対しては素早く指示を受けている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院した際は、出来るだけ面会に伺い、本人、家族、病院関係者とのコミュニケーションが途切れないように努めている。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応について確認し同意を得ている。看取り介護に移行となった場合は、改めて説明と同意を再確認し最善の支援が出来るように取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期に向けた方針を説明し意向を確認し同意を得ている。看取り介護に入った場合は家族に現状を説明し再度意向を確認しながら、家族や医療関係者、職員間で方針を共有し、最善の支援が出来るように取り組んでいる。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の入れ替わりにより定期的には行っていないのが現状となっているため見直しと訓練をする必要がある。		
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の災害発生に特に不安がある。地域住民の方の協力や繋がりを深める必要があると感じている。	年2回の防災訓練を実施している。今年度は火災発生とそれに伴う避難訓練を行い、防災設備業者の協力を得て実施している。コロナ禍の為消防署立会いの下での訓練は行われなかった。備蓄は長期保管できるおやつ類、水、マスク等で、本格的なものは法人で管理保管している。地域との協力体制を模索している。	コロナ禍の中でも、出来ることから地域との繋がりをもち、地域との協力体制構築につながる努力を継続されることを期待する。

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重することは、特に大切にしており職員が不快感を与えるような言葉や態度が見受けられた際はその場で注意し話し合っている。	人格の尊重を基本に、特に言葉使いや応接態度に留意している。親しさと馴れ馴れしさの違いや入居者の好きなこと嫌いなことなどにも注意を払い、誇りやプライバシーを損ねないような接し方に努めている。スピーチロックなどはお互いに注意し合いながらケアに努めている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢が広がるような言葉かけに努めている。時として誘導する言葉かけをしている時があり注意する事もある。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れを習慣づけておられる方や、居室で自分のペースで過ごされたい方等、おひとりおひとりの気持ちを尊重しその人らしく充実感のある日々を送って頂けるよう支援している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の身だしなみ、髪の設定は出来るだけ職員の見守りの下支援を心掛けている。定期的な美容師によるカットをととても楽しみにして頂いている。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、配膳、食器洗い、食器拭きを可能な限りスタッフと一緒に行うようにしている。食事の楽しみを一緒に味わって頂けるような雰囲気づくりを大切にしている。	食材や献立は業者に委託している。調理は職員が入居者の好みに合うように、味付けや形状等、工夫しながら作っている。入居者の保有能力に合わせて後片付けや食器拭きなどを職員と一緒にを行い、自立支援につなげている。職員は楽しく美味しく食べるよう、見守りと雰囲気作りに努めている。コロナ禍であり、会話を控え、音楽の流れるなか穏やかな食事風景となっている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの整ったものを咀嚼力、嚥下力を考慮した食事にしており必要な食事量、水分量は確保し記録している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔内、義歯洗浄の援助を徹底している。定期的な検診と、治療が必要になった時や義歯の不具合等が生じた時は可能な限り施設内で治療を行って頂いている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から個々の排泄パターンの把握に努め、誘導の言葉がけには羞恥心に配慮し支援に心掛けている。	排泄チェック表をもとに個々の排泄パターンを把握し、プライバシーに留意しながら、出来る限り自分でトイレに行けるような自立支援に努めている。便秘予防では、食材や運動、水分補給、お腹のマッサージなどで、薬に頼らない自然排便の支援に取り組んでいる。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前と午後に身体を動かす体操を日課とし、食事には野菜を多く取り入れなるべく薬に頼らない支援をしている。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お好みの入浴剤を入れたり温度、浴槽に浸かっている時間等は本人の希望に沿えるようにしている。	週2~3回午前中の中の入浴となっている。湯の清潔と冬季はヒートショックに留意し、好みの湯温や時間で本人の希望に沿った支援に努めている。好みの入浴剤を入れたり、ゆず湯や菖蒲湯など季節の湯を楽しむこともある。入浴拒否のある方にも時間や介助者、声掛けなどを工夫した支援に取り組んでいる。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意向に添い気持ち良く休息、安眠に繋がるような会話や水分補給、適度な室内の温度等心掛けている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的、副作用、用法、用量については、職員がいつでも確認できる場所に資料を保管している。薬剤師ともいつでも確認相談ができる体制にしている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	メリハリのある日々を過ごして頂けるよう心掛けている。室内で過ごされる時間が多くなったので、職員がより身近な存在となるようコミュニケーションに努めている。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の現在は戸外に出かける企画は実施できないが、施設周辺の散歩は日課としており、恵まれた環境の下楽しみにして下さっている。	施設周辺は区画整理も一段落し、田畑に囲まれ、人家や人通りも少ない環境であり、コロナ禍ではあるが、工夫しながら日々の散歩は継続している。天候や体調に合わせ、個々に四季の移り変わりを楽しんでいる。天候の良い日には少人数で近隣のドライブを楽しむこともある。	



己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は困難であると思われる為所持はされていないが、依頼された品を購入する支援は実施している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時は電話の取次ぎをしたり、メールのやりとりの依頼をされる事もある。家族様からのラインでのやりとりのご希望の方には、日々の様子を動画等でお送りし喜んで頂いている。		
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの天窓からは、夏は優しく冬は温かい光が差し込み、明るさが清潔感を演出してくれます。広いフロアの壁には季節に合わせた装飾等が賑やかに一層明るい雰囲気を出している。	皆が集うフロアは居間と食堂が分かれている。天窓があり明るく陽当りの良い穏やかなフロアの壁には、塗り絵や季節の作品が飾られている。ゆったりとしたソファと大きなテレビが置かれ、入居者はそれぞれの居場所でゆったり寛いでいる。共用空間は空調が整い、臭いや不快な刺激もなく、適度な換気にも配慮された清潔感のある空間となっている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の席の配置には気を配り、気の合った利用者同士椅子やソファでゆっくり寛いで頂いている、ソファで横になってテレビを見たり思い思いに過ごされるようになっている。		
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や小物を持ち込まれ家族写真や、施設で作った作品等飾られている。仏壇を置かれるなど居心地良く過ごせるよう支援している。	入居時に家族と相談しながら、使い慣れた家具や小物、仏壇、写真などが持ち込まれ、自身が作成した作品なども飾りながら自分好みの居心地よい部屋作りがされている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同生活をしながらも、プライベートな時間をしっかり確保したいとの要望にお応えし、全居室の鍵を取り付けプライバシーの配慮を試みている。		